

教育機関等と連携した「みどりの食料システム戦略」の理解促進

教育機関及び大型商業施設と連携し、★3つを獲得した米等の販売で「みどりの食料システム戦略」の取組を消費者にPR

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略（温室効果ガス削減「見える化」実証事業）

○ きっかけ・背景、課題の把握

愛知県立南陽高等学校は、総合学科でありながら授業「農業と生活」で農業生産法人の栽培指導を受け、環境にやさしいお米の栽培・販売に取り組んでいる。また、部活動「Nanyo Company部」の取組で、生産者等から提供された規格外野菜を使用した商品を開発していることから、令和5年6月に意見交換を実施し、温室効果ガス削減「見える化」実証事業への参加を喚起。

○ 取組の内容

同校が実証事業に取り組む意向を示したことから、令和5年9月にオンライン説明会を開催。10月には同校が栽培した米と、同校に規格外品を提供している生産者の野菜が「見える化」実証事業で★3つを獲得。

これを受けて同校と連携して「見える化」ポスター等を作成し、11月には大型商業施設の協力を得てイベントを開催し、米と規格外野菜を使用して開発した商品に「見える化」ラベルを表示して販売実証を実施。

同イベントには当拠点も参加し、生徒とともに「みどりの食料システム戦略」及び「見える化」のチラシ配布を行う等のPR活動を実施。

○ 効果・成果、今後の方向性

当拠点、将来を担う高校生及び集客力が見込まれる大型商業施設が連携して「見える化」の販売実証に取り組んだことにより、「みどりの食料システム戦略」の教育現場及び消費者双方への周知と合わせ、同校の環境にやさしい取組（脱プラスチック被覆肥料等）の付加価値を向上。また、この活動を通じて同戦略が生徒にも浸透。今後も同校等と連携し、消費者に向けて、環境負荷低減の取組への理解を促進する予定。



体制図

